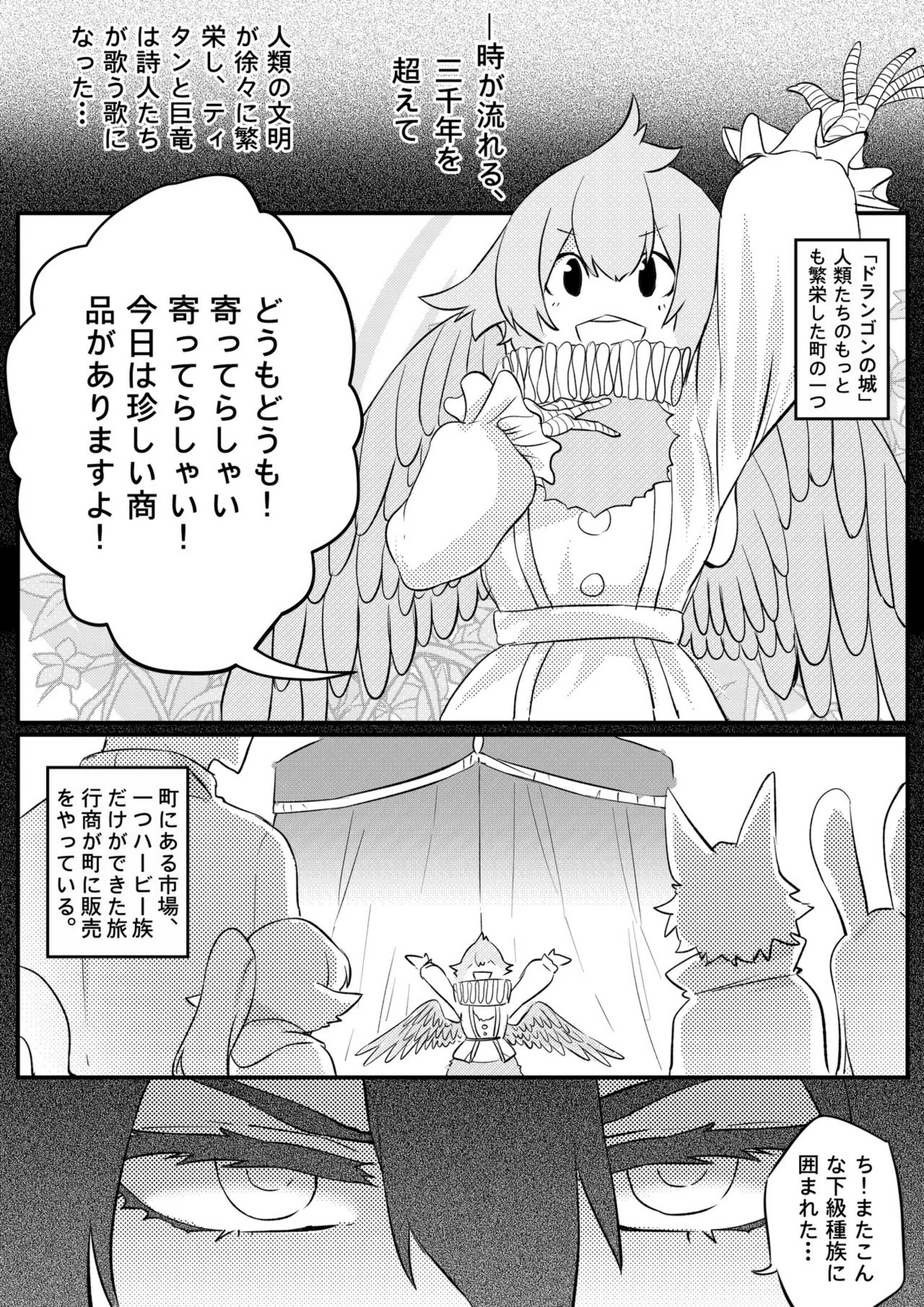
靴がタイタンとドラゴンの栖となってしまった
オレは仕方なく冒険の道を歩み出した

遥かからの時代に、巨大な身形を持つ神族、魔族、竜族、と戦女族、この四つの種族は大地に戦火をばら撒いて、世界に混沌に落ちさせた。
ズリズリ
手足を軽く動くだけで、蟻のような小っちゃい人類と町はあっという間に消さった、人々は恐怖の中に生きるしかない。
とある日になり、人類を愛する神族は自己犠牲を選び、神の目に神格化して、人類に授ける。
神の目の力で、人類は魔王の大軍を撃破した、僅かなサキュバス族だけが逃げられた。

サキュバス族の魔女は「神の目」を奪うという名目で、戦女族族のアマゾン村の女王、「セレスティア」と同盟を結び。「神の目」の魔法エネルギーは魔族と対抗できるが、鋼鉄のような鎧を纏う戦女族に対しては歯も立たない、そして人類の抵抗軍は再び巨大種族の足の下で生き延びるおもちゃになった。
…
…
…
だが、魔女が神の目を取ろうとした瞬間に…
セレスティアは約束を破れ、神の目をわがものにした。
この不公に遣る方ない魔女は最後の魔力を使い果て、神の目を媒介にしてな呪いを仕掛けた。

神の目は戦女族を美しい美貌と限りない青春、しかし、その代わりの代償は、彼女たちが今までのティタンみたいな姿を失い、どの生物よりも小さくなる。
同時に、その奇妙な力は戦女族の体に香りを発散させ、春に目覚めた青春期略奪者の目では、断らない誘惑になった…
かつて上に座る戦女は今になって獲物に落ちぶれた。
身長が数ミリだけの戦女族にとって、黄色髪を持つ猫の少年が足をこのミリ戦女領地を踏んだ時点…
彼女たちの自由は終わりを告げた。彼女たちにとって、数千倍以上大きさの少年は単なる美貌を欲しがるだけじゃない、もっとも重要なのはこの大量な小型戦女たちと遊びの過程だ。

猫族の少年の大きい足は古代巨竜より大きく見える、小さな戦女たちは、あっちこっちに逃げ回るしかない。
自分の種族の習性があり、猫族の少年は獲物を追う時の感じが大好きだ、戦女族の体から発した香りを追跡、戦女が流した汗は印になり、少し開いた足の指で背を向ける戦女に追って、いつもの通りに５６人の戦女を掴むことができる。
僅か一回だけで数千数百ぐらいの戦女族が猫族の少年のおもちゃになった。無理矢理に日常生活の遊び、訓練、セックス、食事まで付き合う。そして日々同じことを続く。


―時が流れる、三千年を超えて
人類の文明が徐々に繁栄し、ティタンと巨竜は詩人たちが歌う歌になった…
「ドランゴンの城」人類たちのもっとも繁栄した町の一つ
どうもどうも！寄ってらしゃい寄ってらしゃい！今日は珍しい商品がありますよ！
町にある市場、一つハービー族だけができた旅行商が町に販売をやっている。
ち！またこんな下級種族に囲まれた…

下級種族は所詮下級種族、私の一面を見たらこれほど驚くなんて。
ま、過去の私なら、貴様らは足指の上すら見えないぐらいけどね。
あの、ここ戦女が売っていると聞いていますが、私はある人を…
あ！彼は…
セレスティア…私だ！
試験管に閉じ込められた戦女族、彼女がセレスティアとは、とても思わない…三千年を渡る時間は彼女の顔に時の痕跡すら残っていない、サキュバスのような魅惑的な体と黒染まず真白な皮膚、まるで偉大な芸術品だ、なのに今その彼女がおもちゃとして販売されている。
この瞬間、見合わせた二人は、同時に互いの初めての出会いを思い出したー

ふう！どうやら鼠少年たちの手から逃れたようだ。
もう我慢できん！もう三千年だ！毎日毎日このくそ蟻に恥をかかせるなんて！こんな日々はいつまで続くんだ？
ズウー！！
しまった！今回は誰なんだ？

ふうー重い！気を付けないと…
ばかみたいだな、いいチャンス！
とっぷ
これでヒッチハイク乗れるね！
うわ！やっぱだめだ！
うう、痛いよ…

あれ？靴に変な感じが？
まさか、虫が靴に入っちゃた!?
う！くすぐったい！やっぱり虫か？
足の指に挟んでいるようだ？もっと擦っていけば出られるかも
痛い！こいつ転ちゃって！
やば！早く出た方がいい
？
動くな！押しつぶされた！
せっま！あっち揉むなやろう

出られない！やっぱ靴を脱ごう！
？
何せよ、これが彼女たちの初めての「出会い」。
おい！人間の小僧、いつまで見てるつもり？私はあんた見下ろす権利など与えてねえよ！

これは、この子よく寝たわ、無防備と言ってもいい。
うぐぐ
お互い様かもしれない、ウレルはセレスティアを話し合いの友達と思って、セレスティアもやっと平等の態度を取る人間と出会った、こうして彼らは一緒に暮らし始めた。

これはこの子の足か?随分大きく見えるな、でもちょっと可愛いな!

この角度から見て本当に圧迫感があるな、それなのに綺麗にしている、外の亜人とは全然違う。
おかしい、こうして触ると落ち着く気がする？
彼、と一つになりたい…
まて！私は一体何を！？私は高きの戦女族の女王だ！人間の小僧の足を舐めるなんて…
つっっ
んん？いいものが発見！

おい、少年！こっちはただ見て買わないお客様は歓迎しませんよ！
違う！彼女は私の友達だ！彼女を返してください！
貧乏餓鬼があることないことを言うな！
いった！
あら、道を邪魔しないでくれる
これもらうよ
お客様、彼女の値段は…
は、はい！お好きどうぞ
これで十分だろう！
ああ…噂通り、この美しい容姿、私のアクセサリーに入る資格は十分だ、そして私の高き身分も見事に示される。
ウレル…

は？まだよそ見して誰かを見ている？あんたのご主人はこのわたく、し、だ！
あの、彼女は私の友達です…
馬鹿な夢はやめとけ、薄汚い下民、早く離れろ！
はい、お客様気を散らさない、レアーな商人はまだ沢山ありよ！
…
…
彼女たちの来歴について、この私がゆっくりこの話を皆さんに聞かせあげます。
…
…
…

日が沈み、ドラゴンの城の一般住民は既に寝たが、城の周辺にある雲にそびえる山の上に、何かかが起こそうとしている…
山の上のとある洞窟は人群れがいっぱい、これら不死妖術を使う人は世界から来た、彼らはイシス女王を不死者の神として崇める、そして定期に祭る。
偉大なイシス女王！我ら老臣たちがついに儀式の準備が整えました！今宵あなたはやっと長き失われたドラゴンの城を取り戻すことができる！
さあ、この素晴らしい器を使ってください！何といえあなたこそこの世界で唯一で永遠の女王だ！
やだ！はなせよ！

やあああ！
ズズ
ザァ
…やだな、煩い、
この小っちゃいも
のどもが…
女王が降臨した！
全教徒はイシス女
王に敬意を！
ゴゴゴゴー

今回が随分寝たな、お腹すらすいた…
女王陛下万歳！
ん？ここに沢山の食べ物があるじゃないか？
やあ！陛下何を？
吸う！
ここまで頑張甲斐に、私の血肉になる光栄を、お前らに授けたまえ！

やめないか!
イシス女王!貴様の暴政もここまでだ!
あら?関係ない人に入り込むとは、今回の信徒は今まで一番だめだな!
よかろう!貴様は私をどう殺すの?ねじ殺すはどう?
傲慢の魔物め!貴様はやがて犯した罪を自ら食らうだ!食らえ!
何!?ちょっと!
こうして、勇者ライラは復活したイシス女王と彼女の爪先を討伐した!そして現場を掃除する時、私はこのレア種族を見つかりました!
はやく見せろ!
勇者様すごい

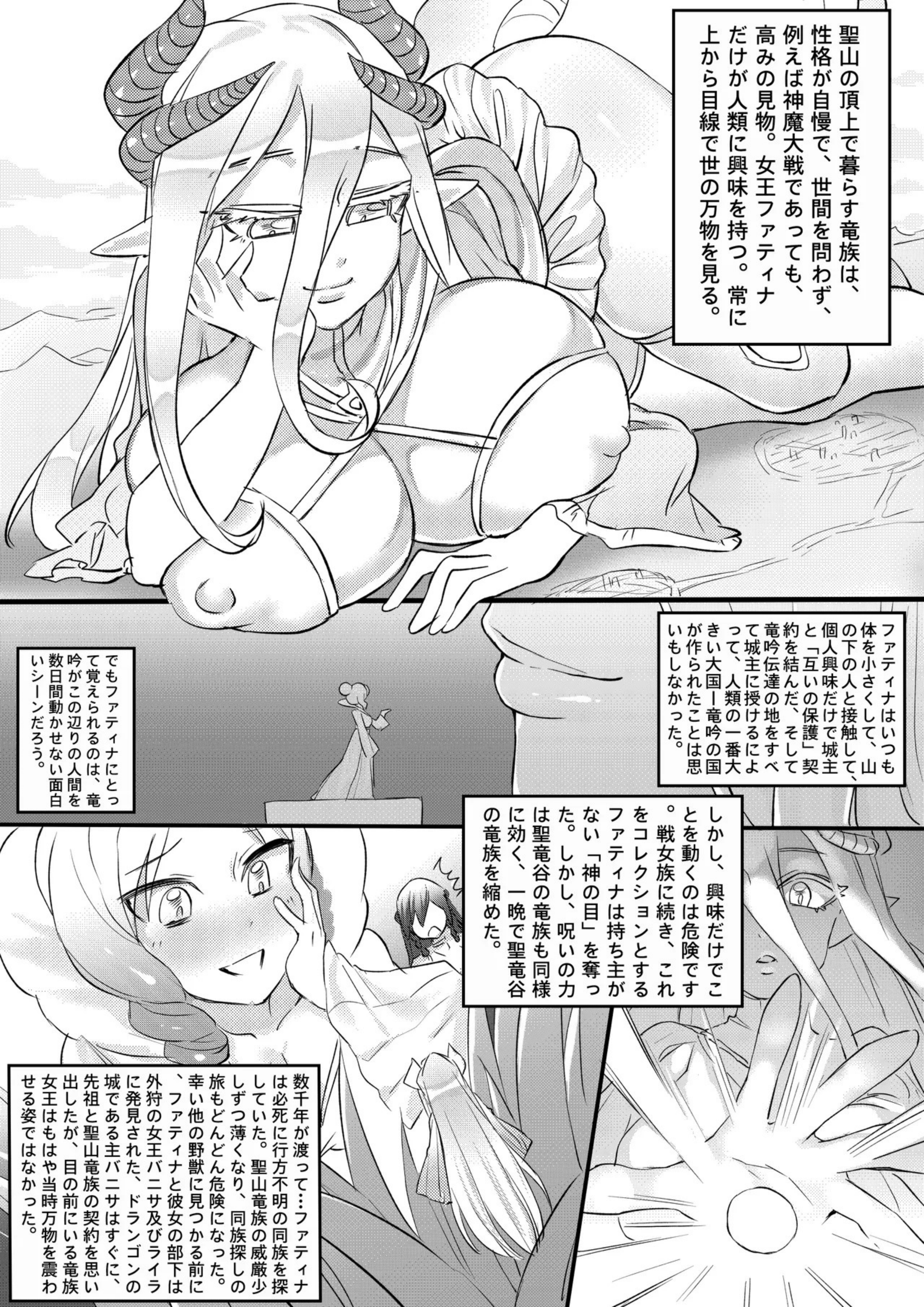
この時同じく、ドラゴン中央の王城に、女王バニサは高ぶる視線を抱えて、各国の使者に震わせながらも、文句を言う勇気がない。
ふん…やっと帰ってきた！
女王陛下の気分が良くないようですが、一体何が？
城の邪教信徒が反乱を起こしたようです、イシス女王を復活しようとしている！
ち…
火狐ライラ、女王陛下に見参いたます！
私は既に反乱軍の巣を破り、その頭目であるイシス女王を生け捕り、連れ戻しました！

ふんん、あなたいつもわらわを失望させくれないわね、ライラ。
お褒めに預かり！
さあ、その反逆者を出せ、わらわに見せてもらおう！
…
ぱたー
屋根が開かれた
眩しい

まだ騒いでいる魔物少女たちは、突然上に現れた巨人の顔に対して、声すら出ないほど驚いた。
…
…
…
ズオォォォォ
あう！
あう！
女王様、私たちの後ろに！
あ、ふわふわして女の子たち、可愛いね。

許さん！この私をこれほど恥をかかせるとは？
私を愚弄した代償を償え、愚かな人間どもめ！
あ！
そうさせるか？
なに!?

は！やはり噂通り、あんたは巨大化の能力を持っているな。
この野郎！やめろ！
わらわは知っておるぞ！もしこの「器」を殺したら、あんたは再び自由を手に入れる！そんなことより、あんたをこの娘の体に永遠に閉じ込めて、大人しくわらわのペットとして、もっとよいのでは？
ライラ！彼女の爪を平たくしろう、その綺麗な毛を傷つけるんな！わらわはまだ彼女に婚礼でお芝居をしなければならぬ！
ううう！こんな恥を私に、誰でもいい早く私を殺せ！
…


聖山の頂上で暮らす竜族は、性格が自慢で、世間を問わず、例えば神魔大戦であっても、高みの見物。女王ファティナだけが人類に興味を持つ。常に上から目線で世の万物を見る。
ファティナはいつも体を小さくして、山の下の人と接触して、個人興味だけで城主と「互いの保護」契約を結んだ、そして竜吟伝達の地をすべて城主に授けるによって、人類の一番大きい大国ー竜吟の国が作られたことは思いもしなかった。
でもファティナにとって覚えられるのは、竜吟がこの辺りの人間を数日間動かせない面白いシーンだろう。
しかし、興味だけでことを動くのは危険です。戦女族に続き、これをコレクションとするファティナは持ち主がない「神の目」を奪った。しかし、呪いの力は聖竜谷の竜族も同様に効く、一晩で聖竜谷の竜族を縮めた。
数千年が渡って…ファティナは必死に行方不明の同族を探していた。聖山竜族の威厳少しずつ薄くなり、同族探しの旅もどんどん危険になった。幸い他の野獣に見つかる前に、ファティナと彼女の部下は外狩の女王バニサ及びライラに発見された、ドランゴンの城である主バニサはすぐに、先祖と聖山竜族の契約を思い出したが、目の前にいる竜族女王はもはや当時万物を震わせる姿ではなかった。

彼女がこれほど功績が立てたとは、これでは、彼女からの誘いを無視することはできないだな。
よう、やっとあなたに足を動かせてもらいましたね。
ヒュ
私はあんたの話を聞きに来ただけだ、勇者ライラ。
う…ん私はドランゴンの城の守り神、そしてあんたの女王バニサと契約関係がある！いくらあんたでもむやみに私を触れるこは…
おい、聞いてるか？私を放せ！
はいはい、下を見てください！これは私が工匠人を依頼して、聖竜谷を真似してできたスケールモデルだ。
なに！本当なの？
560名アド聖山の聖竜族は既に全部収容されました。その子供も含めて全部ここにいる！

まさかあんたが私の長年の宿願を！このお礼はどうするばよいのか？
勇者ライラ！あんたの望みを教えてくれ！今の体はこう小っちゃいが、私ができることでもあるなら…
やあ
私はあんたでいい！傍にいてくれ！
でも、契約…では女王バニサだけが私を可愛がる…

私は本気だ、幼い頃からあんたの彫像に惹かれて、今になって私は本物のあんたと会えるなんて…これはきっと神の導きに違いない！あんたが喜べるなら私は！
ええ、ライラ様…
だ、だめだよ！
ぐん～
うん…

あれ？
そんな…？
愛おしい主、ご心配不要、女王はただ竜族がするべきことをしているだけです。
我々の伝統の中に、もしもっと強大な同族にあったら、体は思わず相手を奉仕して、自らの敬拝と身を捧げます。
ああ、アシェル…
アシェル！いたずらもほどほどにして！父同じ母は違うとはいえ、彼女は女王だけではなく、あなたの姉でもある！

おねえさん…これはとっくに私が呼べるものではありません、
母の出身が卑しいで軽視された私と違って、彼女は創世と壊滅の女、竜族女王ファティナ様です！
え、もしかして本気で怒った？
やれやれ、面倒くさい
馬鹿なことはやっていないで、早く姉を同族に合わせろ。
もう止まっていよう、竜女王様！
……
変なことはするな、私が見ているんだ。
うう…さっきはどうした？
ここはどこ？
ライラ様、どちらに！

そういえば礼を言わなければな、お、姉、様！追放されたように私にあんな遠い辺境を守るおかげで、私が受けた呪い効果が皆よりちょっとだけ少なった。
ガン!!
!?
それともこの角度の方がいい？何せよ、今までずっと上から私を見てきたからな。
王子殿、お帰りなさいます！
いいからいいから、全員静かにしてください、今日の主役は私じゃないよ。
王子様、今日も大変お疲れ様でした！
今日我々のリーダー、偉大なファティナ陛下がお戻りになりました。我々同族のために走り回る姿が見る！
….
これがファティナ陛下、見た目では威厳一つも！
え、嘘だろう？
主はお姉さまと同性だから…いずれ、いずれ主は厭きれます！その時、主は私を真の眷属として選びます！

早くうちに帰りましょう、私の可愛いペンダント！
くそう！こんな成金野郎でセンスがない女におもちゃにされる気はないー
ふんん～
見つかった！よくも女王陛下が手にしたい宝を先に買うなんて、この罪は断じて許さん！
ヒュウウウウ
お願い…あ！
え、これは？

こ、これはさっきの女性、それとセレスティア？一体何か？
わ！
ぼうっとして何をする？さっさと逃げろ！
なぜ逃げるの？
私たちは誰かに狙われたんだよ！
....
続く